

## 平成29年度第2回沼田市市民構想会議（会議概要）

- 1 日 時 平成29年7月12日（水）午後2時から午後4時
- 2 場 所 沼田市役所 北庁舎 第三会議室
- 3 出席者 委員13名（欠席12名）  
アドバイザー 篠田 暢之氏  
沼田市 副市長、総務部長、財政課長  
（事務局：企画課長、企画係長）

### 4 会議内容

#### （1）開 会（事務局）

#### （2）会長あいさつ

<会 長>

第2回ということで本日が実質的なスタートになりますが、皆様方の貴重なご意見を積み重ね、より良いまちづくりのための提言につながるよう進めてまいりたいと考えていますので、ご協力をお願いしたいと思います。

#### （3）前回の会議結果について

<会 長>

それでは事務局から前回の会議結果について説明を願います。

<事 務 局>

\*\*\*\*\* 【資料1】により説明 \*\*\*\*\*

<会 長>

事務局からの説明がありましたが、ご質問等があればお願いしたいと思います。特になければ次に進ませていただきます。

#### （4）議題

##### 1）沼田市公共施設等総合管理計画の実施に向け、今後の進め方について

<会 長>

「沼田市公共施設等総合管理計画の実施に向け、今後の進め方について」を財政課長から説明願いたいと思います。

<財政課長>

\*\*\*\*\* 沼田市公共施設等総合管理計画について説明 \*\*\*\*\*

<会 長>

財政課長から沼田市公共施設等総合管理計画により、これからの40～50年後の将来を見据えた公共施設のあり方について説明がありましたが只今の説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

<委員>

最適配置、規模の適正化などの表現があるが、何を以て最適なのか、適正なのか判断の基準が分らない。あるいは“必要性の低い施設は廃止を検討”とあるが、必要性が低いことをどう判断するのかを、議論もしないで検討しろと言われても無理がある。全ての項目についてそうであるが、判断基準が何なのかということの詳細（つまびらか）にしない限りは無理だと思う。

<財政課長>

ご意見のとおり、最適化、適正化、必要性などは判断基準がなければ分らないということとして、これにつきましては、今後、実施計画を作成していく中で、検討してまいりたいと考えています。

<委員>

総合計画を見ると絵画的な表現ばかりでリアリティがない。  
沼田市では何を重点的に考えていけば良いのか、それが無い限りは中々基準を決められないと私は感じる。

<財政課長>

例えばそれほど広くない地域に類似施設が複数設置されている場合には、どちらかひとつに集約することが可能ではないかなどの視点から、類似機能の集約化・統合は考えていますし、また、旧市内の集会場や区民館は基本的には地元が所有していますが、白沢町、利根町では旧村（現沼田市）で所有している施設が多いことから、これを沼田市にあわせるとするならば施設を地元へ譲渡させていただき、地元へ管理していただければどうかという考え方もひとつの方策としてあることから、そうした考え方を含めて検討していただければと考えております。

<委員>

地域によって違いがあることは分るが、そうした考え方は絵画的なことで均等割りしましょうという意見に近い。それとPPP（新しい官民協力の形）やPFI（「小さな政府」を目指す公共サービスの提供に民間の資金やノウハウを活用する考え方）をやりましょうというのも分るが、そんなことはどこでもやっていることで、沼田市の特徴は何か、いわゆる沼田市のアイデンティティを掘り下げて検討していかない限りは、40年後を見据えた沼田市のまちづくりは難しいと思う。

沼田市の六次総合計画をみると基本構想の中にまちづくりの将来像「こころ豊かに暮らし、しあわせを実感できるまち 沼田」と書いてあって、これはこれで良いことだと思うが、では具体的に何なのかということについては一切触れられていない。

このあたりのことを沼田市のアイデンティティだとか、沼田市の誇りとは何なのか、愛着とはということをよく議論した上で進めて行かないと絵画的であり意味のない

ことになってしまう。

<財政課長>

沼田市公共施設等総合管理計画では、既存施設をどうするのかということがひとつのポイントになっています。そのため新しい施設をどうするのかまでは言及していませんので、寧ろこれからのまちづくりを積極的にして行くためにスリム化をしましょう、体力づくりをしっかりとして色々できるようにしましょうという計画になっています。

<委員>

40年後までに40%削減しなければならないということは理解できるが、それでは削減のために何を選んでいくのかななどを議論していくことが大事だと思う。

<委員>

この検討は、この会議室で図面上、書類上でやるのか、それとも現地に赴いて現地的情勢を見て判断するものなのか。現地を確認せずに図面上で判断しろと言われてもそのような無責任な判断はできるはずもなく、それぞれの地域に特性があって地域にとって必要なものであれば残さなければならないという考えも当然出てくる。

<総務部長>

現状として、市にはこれだけの施設がありますが、とても全てを維持してはいけないのでどうしましょうかということで、この基本的な計画を皆様にお示しさせていただいているというのが“今”ということでございます。

また、市には施設がこれだけあって、これを直すとこれだけ費用がかかってしまうので、これを4分の1に減らさないと、今後は維持できなくなってしまいますというのが本計画の基本であり、今後は施設ごとに個別計画を策定し、この施設をこれからどうするのかを決定していくこととなります。

特に集会所の話が出ていますが、やはり集会所については地域の皆さんが一番使いやすい方法を考える必要があり、なお且つ、減らすことにもご了解をいただかなければなりませんから、当然、地域の皆さんと話し合いを重ねる必要があると考えています。そのため地域の皆さんとお話しをさせていただく前に、先ずはこの市民構想会議の皆さんに現状理解として、こういう計画を立てましたということをお示しさせていただき、今後、この計画を進めるにあたって留意すべきこと、配慮すべきことなどのご意見をあらかじめいただき、それらのご意見を参考にしながら、地域との話し合いを進めてまいりたいと考えているものでございます。

<委員>

第六次総合計画をしっかりと進めることで、沼田市公共施設等総合管理計画は進められるように感じているがどうか。

<委員>

第六次の前には第五次総合計画があったが、第五次総合計画を100%実施していないにもかかわらず、第六次総合計画に移るのかということもある。本来は過去に遡って第五次総合計画を見直した結果として第六次総合計画はこういうものであるというものを作成しなければならないと思う。その話し合いをしないで第六次に移っているので、その辺りから見直していかなければ第六次総合計画でも同じことの繰り返しをするのではないか。

<委員>

総合計画を読ませてもらっても総花的な書き方をされていて、これでは何も実施できないと感じている。唯一、まちづくりの理念で「本市の普遍的なアイデンティティである恵まれた豊かな大自然や先人が築いてきた歴史・文化を保全・継承する、“暮らしの舞台づくり”を推進します。」とあって、ここではじめて沼田市のアイデンティティのことを取り上げていて、「豊かな大自然」と「先人が築いてきた歴史・文化」の2つだと言いつけている。これが正しいのか自分に照らし合わせて考えてみたが、多くの人が生まれ育った土地の自然環境には愛着を持つであろうし、郷土の歴史には誇りを感じるであろうから、このふたつは沼田市民にとって、とても大事なことなのだと考えられる。また、これを掘り下げていくということが、今後検討を進めていく上での基準にもなってくると思う。それ以外のところは総花的でどこでも書いていることであって、少子化のために子どもを産みましょうとか何だとか、どこかの本から取って書いているのと一緒であり、それでは駄目だと思う。

<委員>

沼田市公共施設等総合管理計画の具体的な実施に際して、この市民構想会議の立ち位置はどうなっているのかをはっきりさせないと話がまとまらなくなるので、何回に分けて何を検討するのか、その際、まとめられたものが提言書なのか意見書なのか、どういった形で結論を出していくのかについても、もう少し具体的に示してもらわないと、次に集まっても同じことになってしまう可能性があり、そうなると議論自体を止めましょうということになってしまう。

<総務部長>

沼田市公共施設等総合管理計画については広報を通じて周知していますが、策定から間もないこともあり、市民への説明が行き届いてないということがありましたので、新年度予算説明会とあわせて市長が各地区で説明していますが、残念ながら参加者が少なく、まだまだ計画の内容が周知されていない状況にあることから、先ずはこの市民構想会議の委員さんに本計画をお示しさせていただき、この計画をご承知いただく

とともに、進め方についても率直に様々なご意見をお聞かせいただきたいと思いますと考えております。

実際の推進にあたっては、市で別に組織して地元に入って現地を見ながらひとつひとつ決めて行きたいと考えておりますので、この市民構想会議の皆さんにはこの計画をご理解いただくとともにご意見をいただければ有難いと考えております。

#### <会 長>

計画書に市民アンケートの結果が載っていて、総論では賛成でも各論では難しいとの結果が載っているが、このあたりについても委員の皆さんからご意見があればお聞かせいただきたい。

#### <委 員>

沼田市の人口が減少している中で、市民サービスを低下させないようにしたいと、市長も述べておられるが、こうした事態は喫緊の課題として、必ず来ると私も思っている。地域の農業者を見ても後継者不足、若い人が地元に残らないなどの現実に対処するためにも、どこかで何らかの手を打たないと、大変なことになってしまう。

例えば幼稚園児が少なくなっているが、それでは子どもはどこにいるのか？というところ、多くは保育園に通っていることが分かる。この現実の背景には女性が働く必要性が高まっており、そのために働く女性に優しい制度として、子どもを預かってくれる場所が欲しいことの現れがこのような現実を生んでいると思う。これからの考え方としては幼稚園から子ども園・保育園に移行していくなど、若い人が地元で活躍できる状況を残すことがとても重要になっていると見ている。その為にもこうした現実から見直しを進めていかないと沼田市の人口は減る一方だと思う。

利根沼田地域を見ても片品村とみなかみ町では極端な人口の減り方になっていて、地域のイベントが既にできなくなっている。今までは補助金などの資金支援で出来ていたことが、地域の高齢化が進んで資金をもらっても体力的にできない状況になっている。これが近い将来、もっとあちらこちらで発生してくる。おそらく沼田でも同じような状況になってくると考えられる。そうしたことを踏まえれば若い人たちが地域に残れる環境を整えるとか、沼田市ではこれから何をしなければならぬのか、何をすべきなのかが見えてくると思う。

最も大きな問題は働く人がいなくなってしまうことで、農家が規模拡大したくても働く人がいない、働ける人がいない状況になっていくことである。昭和村では海外から研修生を受け入れて労働力を補っている。将来的には沼田でもそうした労働力を使わない限り必要な労働力が確保できなくなってくる。そうすると中山間地域の厳しい環境にある農地は放棄されはじめ、街なかに熊が出没するなど鳥獣害の被害が発生してくるようになる。また、最近目立ってきているのが、動物に付いてくる蛭が里に住

みつくようになっていて、これがもの凄い勢いで増えているので、近い将来には里山や農地に人が入れない環境になってしまう。こうした現状に歯止めを掛けて少しでも遅らせる、あるいは地域の環境を守ることも、この市民構想会議の中で議論していくべき課題であると考えている。また、人口が減少している中での施設の統合や廃止などの見直しをしていくことはやむを得ないとしても、道路や上下水道などのインフラはこれからも維持していかないと、ますます人が住めない環境になってしまうので良くないと考えている。

<会 長>

他にご意見があればお願いしたい。

<委 員>

全体としてどう考えるべきか、それがこの市民構想会議であると考えている。

<事 務 局>

第1回のときに確認させていただきましたが、市民構想会議にお願いすることとして、市長からの提案事項、委員の皆さんあるいは市民から市長に対する提言のふたつをお願いするということでありまして、先行して市長が総合管理計画を策定してこれから個別計画をそれぞれ作って行く中で、委員さんの皆様方には個々にこの施設はどうしたら良いかということではなくて、これから個別計画を策定していくにあたり留意すべき点などをお聞かせいただき、個別計画策定にあたっての参考としたいということでございますので、本日委員さんからご意見が出された部分については、市長の提案事項が済んだ後に、ご議論をいただければと思っておりますので、今回につきましては、公共施設総合管理計画の実施に向けて考慮すべき点等について、ご意見をいただいて、それを参考として進めていくということでお願いできればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

<会 長>

統廃合にあたっての留意点、あるいはポイントなどについて皆さまからご意見をいただきたいということなのでよろしくお願いいたします。

<委 員>

計画期間を40年としていて、40年で40%を削減できれば良いということだが、最終年度の40年目に40%を削減できれば良いということではないと思うので、短期的な数値目標の設定についてお考えがあればお聞かせいただきたい。

<財政課長>

ご指摘のとおり、できるだけ早い時期での実現を目指すものであり、削減の時期が早ければ早いほど、よりその効果が長く得られるものですから、現状では具体的な数値目標はありませんが、できるものはできるだけ早く効果を出していきたいと考えて

います。

<委員>

それは、例えば今後5年間で何%を削減するなどの目標数値の設定を考えていくということで良いのか。

<財政課長>

ご意見をいただきながら、施設ごとに個別計画を策定していく中で、自ずから5年後、10年後どうするのかということが判明してきますので、進行管理の中で進めていくという考え方でいます。

<委員>

年間の利用率や稼働率を調査した上で地元の方からのご意見をお聞きしながら必要性などを検討していく方法がシンプルで良いと思う。40年という計画期間であるが動けるところは直ぐに動いていく必要があるのではないか。

<委員>

民間企業では何かあるとまずは経費削減ということを考えるので、もっと安い費用でインフラの更新ができないか研究してはどうか。

<財政課長>

22頁にライフサイクルコスト(LCC)の縮減について載っていますが、使うこととした施設はできるだけ安く更新できるよう研究してまいりたいと考えています。

<会長>

論議が続いていますが、時間の関係もあるので進めさせていただく。先ほど企画課長から委員会を設置しないで、この全体会議の中で意見を集約したいとの説明があったが、そのような進め方で宜しいか。

特にご意見がないようなので、委員会は設置しないで全体会議の中で議論していくということをお願いしたい。

それではここでアドバイザーの篠田先生からご意見等をお聞かせいただきたい。

<アドバイザー>

先ほどから、それぞれのご意見やご指摘がありご発言内容である疑問点や問題提起等について、納得しつつ傾聴しておりました。特にリアリティがないというご指摘については、今のところそのとおりでありますが、この点ではやむを得ない事ではないかと感じます。別言すれば、本席を含めたこの市民構想会議に一定の市民的議論の盛り上がりがあり、そこに期待されているからだろうと思っています。そのため、本日も指摘のあった諸々の問題点は企画課の方で、あらかじめ理論的な整理をされたものだと私は理解させて頂きました。現実対応のための理論化を企画課という実験室であらかじめ理論化して頂いた話だと理解すれば別段これはこれで問題ないと思いました。

むしろあらかじめ将来を見据えた沼田市をどこに設定するかという議論がより現実的であるためには、はじめに理念ありきで全く問題ないと考えます。ただ、その際に必要な条件は、この理念への合意形成が極めて重要なことであると思います。

理念を目標と言い換えればそのことが理解して頂けるものと思います。目標を具体化するために、その具体的実施に必要な時差（理念＝目的＝計画と住民意識の落差）をどのように迅速に、かつ透明性をもって埋められるのかがこの市民構想会議の旺盛な議論に期待されているのではないかと思います。

本日、2枚の資料をお配りさせていただきましたが、資料2は前回のごあいさつの中でもお話しさせていただきました、人口減少の日本でこれから起きることを「日本の年表」の著者、河合雅司氏の著書から引用させていただきました。資料3は同書「日本を救う10の処方箋」からの抜き書きです。が同書では一般論としての処方箋ですが、地域を置き換え考えることで十分に参考となる、今後の議論を進める手掛かりになると考えました。

そのようにとらえれば「沼田市を救う10の処方箋」と読み替えることが出来ます。しかし、これらの処方箋にはこれまでの第1期の市民構想会議の議論で出され、ある程度まで周知され、集約された意見と重なる部分が散見できましたので、その部分に議論の重複を避けることを意図して、私のほうで下線を付しました。

第1期の市民構想会議の貴重な議論を活かし第2期に託された今後の議論が加速するように願い、下線を引きお知らせしたいと思いました。その意味では、河合雅司氏が処方箋として提言されている内容と、これまでの市民構想会議での2年におよぶ議論が見事に重なっており、より現実的でリアルなものとして議論されていたと思います。

今回は40年で4分の1という話の進め方を含めてもっと掘り下げた話、あるいは地域の人々がどう考えているのか、どうしてほしいと思っているのか、そうしたことを広く深く、あるいは地域に根差した地域目線で、議論をして行くということが、ここに求められているのだと思います。

あえて今回の市民構想会議では第1期の市民構想会議のように分野・課題ごとに分科会を設けず、広範囲な議論をと担当課でお考えであった点も、縮小する際に偏りの少ない総合的なビジョン（縮小均衡）やその具体策までの検討を委員の皆様方の議論に期待されているからだとは理解しました。

はじめにご意見として指摘されました自然、文化・歴史ですが、これは私もとても大切な視点だと考えています。この資料3をご覧くださいますと、『20世紀型成功体験と決別する』とありますが、市長さんは総合計画の冒頭のあいさつでこれを述べられています。今や「足し算」時代ではない。施設をどんどん作って行く時代ではな



く、むしろ「引き算」を基本に考えないと、沼田市も大変な事になるという市政運営上の危機意識から、このようなお思いが発想されていると考えます。

次の『戦略的に縮む』ですが、世の中全体が未来に向かってシュリンク（縮む）する時代に、沼田市も他の地域と同様に、縮む対策は避けられません。しかし大切なことは、何でもかんでも全てを縮める必要は必ずしもないのです。先ほどアイデンティティに関するご意見がありましたが、地域の特性を自覚し沼田市らしさに誇りが持てる、あるいは沼田でなければという意味での特異性（特質性）を、この機会に議論し、これまで以上に、逆に足し算していく取り組みがあっても良いと思います。ですから施設に関しても、何でもかんでも引き算しようという議論ではなく、その為にも地域住民の方々がより豊かに生活できる為に必要なモノやコトへの議論がこれまでも増して重要なことになっていると思います。

次の『24時間社会からの脱却』ですが、不便さをもっと楽しんでみたらどうかという議論も第1期の市民構想会議では出ていました。それでは沼田市は“不便”をどこまで受け入れられるのか？話し合われないと沼田らしさを構築していく議論に近づけないと思います。先ほども熊や蛭の話がありましたが、『非居住エリアを明確化する』ですが、「足し算」時代が終わり、「引き算」時代へと突入している日本は従来の市役所のあり方では上手く機能しないことが分かっています。従来通りのインフラ維持には恐らく困難な問題が早晚、出てくるという意味からも、引き算の根拠が明確であるべきです。従来のインフラを残すという選択肢も同時に議論される必要があると思いますが、ここでも何故、残すのかに明快な根拠が求められています。

次の『得意分野だけに資源を集中』については様々なお考えがあると思いますが、現実的に全部やることは不可能で、沼田らしさを残す産業力あるいは後世に継承し育てていく地域の誇りとしての文化・歴史など、得意分野に資源を集中させていくことを考えることも必要だと思います。私見ですが、永い時間に耐えられ地域の誇りや自覚を深める地域力のアイデンティティは歴史をも含めた文化力であると考えています。その土台に豊かな自然があると思います。

次の『中高年の地方移住推進、新天地で青春を取り戻すセカンド市民制度の創設』は、人口減少に歯止めを掛けるセカンド市民制度の創設により人口を増やそうという取り組みです。人口増加政策はどこの自治体でも喫緊の課題として懸命に取り組んでいます。決定打となる妙案がないのが現実です。上手くいっているケースの場合でも地域を維持する力の先食いをしているケースがほとんどと言っても間違いありません。

人口増加策が間に合わないという問題は、今、生まれた子供が成人になり親となりその対策効果が出てくるには、これから30年ほどの時間を必要としているからです。

23年もすれば全国の自治体数が半数以上も消滅すると指摘されている一方で、30年後にようやく人口増となる状況まで待つことは別な視点からも問題が大きすぎるように思います。地方自治体の沼田市がこの問題だけに特化し考えるということは、他の問題解決とのバランスを欠くことになり、足元の大切な現実を見失うリスクが高まります。ここでも縮小均衡への配慮が欠かせないのです。こうした事態になることは専門家の間では、早くから指摘されてきていた問題だからです。

人口増加の為の方策として、河合さんはひとつの具体的な提案に「知の巨人村」構想を挙げています。研究者は多くの蔵書を持っており、その蔵書の中には後世に残すべき貴重な文献や資料があることから、空き家をそうした研究者の第二研究室として活用してもらい、それらの蔵書を保管しご本人やその関係者が逗留することができる。更にはこうしたモノを基礎に時間をかけて何らかの仕組みを作り、社会的評価を高め、他の人もそれらの蔵書を活用することができるような仕組みを考えることが、それほど経費を掛けず地域の文化度を高めることに役立つという提案です。幸い沼田市は首都圏にも近く、こうした提案はこれからの沼田市を考える際の参考になります。以上が河合雅司氏の処方箋の中から、これまでの議論を踏まえて推論できる範囲ではないかと思えます。

現実的な話としては資料2になります。先ほど幼稚園の入園者が5人で、農業従事者が不足し、新たな担い手が見つからないなどのお話がありましたがこれは人口問題そのもののお話だと思います。その意味で2030年の欄を見ていただくと13年後には「百貨店、銀行、老人ホームが地方から消える」と想定されています。では沼田市ではどうなのか、その現実の流れに任せて受け入れるのか、それともそれでは困るということであれば、具体的にどのような対応策をアクションとして起こす必要があるのかというお話になるでしょう。

このように見てきますと、40年先を見据えた計画は、早ければ早いほうが良いという議論にもなってくるかと思えます。沼田市は食糧産出においては豊かな地域ですが、35年後の2050年には「世界的な食糧争奪戦に巻き込まれる」と予想されていますがこのような問題に対しても早めの対策が求められていることがわかります。こうしたトピックをひとつひとつ、この地域の現実を重ねていくと、ご発言ご議論が、本日の前半で説明のあった“40年で4分の1に”という思いを具体化することにつながるのではないかと思いながら、拝聴させていただきました。

第1期の市民構想会議では沼田市の未来に向けての議論では、問題を絞り込んでいくために「一般解」の確認から「特定解」への議論として、後半からは分科会を通じて、それぞれの問題が議論としてより具体的に煮詰められたと理解しております。

第2期のこの市民構想会議では「最適解」への具体的な議論が市民代表の各委員さんの率直な想いとして期待されていると思えます。本席の冒頭部分で、委員のご発言に「最適」「適正」等についての基準についての質疑がありましたが、まさに、ここ

から議論が現実直視を基本に、具体的に期待されているのだと思います。

<会 長>

貴重なお話をいただきありがとうございました。

先生のお話の中に基本方針を進めて行くにあたってのヒントが隠されていたようですが、実際に29頁に市民文化系施設の表に基本方針（方向性）として、譲渡、統合、複合化、長寿命化、必要性の検討などが掲げられていて、これら基本方針を進めるにあたって、具現化するにはどのような方向が良いのかご意見を頂戴したい。

また、財政課長の説明の中に、ひとつの集落に複数の類似施設がある場合の方向性についてもご意見があればお願いしたい。

<委 員>

ひとつの集落に複数の類似施設がある場合について、やはり地元で会議を行ってこれからどうするのかということを決めて行かないと無理だと思う。

<委 員>

区長をはじめ三役の方は災害対策や認知症老人の問題など色々な組織を作れと言われている中で、新たに何かをお願いしますと言っても区長会では中々対応できない状況であり、先般の区長会の会議の中でまた仕事を増やすのかとお叱りを受けているところであるが、先ほどのご意見について区長会でも各町で対応しなければならないと思いつつ拝聴させていただいたので、全体の総務をとおして各区長あてにこういうことが出されたので、是非、対応願いたいという要望を出そうと考えている。

<委 員>

例えば民間委託したらどういう結果がでるとか、地元にも何も知らせないで一方的に減らすといわれても受け入れられることではないと思う。

特に集会所については地元には分からない実情があるであろうし、利用率や稼働率、近隣に類似施設がある・なしなどの理由で単純に必要性を押し量れるものではないと思う。また、集会所が避難所としての機能を併せ持っていることを考えると立地の安全性や避難経路など総合的に判断していく必要があると思う。

<委 員>

総務部長と相談し、支部長会議を開いて各区長あてに本日の内容を提案として出させていただく。

<委 員>

利根町内の施設が多く減るように感じられるがどうか。

<委 員>

必要性があれば施設を残して市から地域コミュニティに譲渡するという選択肢もある。

<会 長>

災害時を考えると避難所は重要な位置付けになるので、集会所については“譲渡”という方向性も重要になってくると考えられる。

<委員>

使用方法の緩和、使用料の低価格化により、施設をより有効に活用できるので使いやすさを考えた柔軟な見直しが必要である。

<会長>

施設を市から町に譲渡した場合に固定資産税が課税されるようになると思うが軽減措置などはあるのか。

<財政課長>

地域の集会所として地縁団体に登記していただければ減免されます。

<総務部長>

集会所を含めて、各施設にはそれぞれ担当課がありますので、その担当課を中心にこれから地域の方々とお話しをさせていただき、この先どうするのか検討していただく予定であり、あまり行政の方から計画では4分の1だからこうして下さいということではなく、地域からのご意見を伺いながら、例えば同じ施設が地域内に3つありますが、3か所なければいけないのか、仮に減らすとしたら、この3つのうちどれを残したら最も有効に使えるのかなど、地元と色々なお話しをさせていただきたいと考えています。また、先ほどご意見のあった避難所として機能させる場合には場所の安全性が重要な要素になってきますので、どこが安全であるのかなどを個々にお話しさせていただきたいと考えています。

その話し合いの中で“譲渡”ということになれば、その後の税金関係などもあるので他の施設と比較しながらご理解いただき、ひとつずつ組み立てて行きたいと考えています。

現時点では総体的な計画を策定したので皆様にお知らせし、こうした計画があることをご承知いただきたい。また、具体的にそれぞれの施設をどうするのかについては、これから施設の担当課が中心となって地元や関係者からご意見をお聞きしながら施設ごとの個別計画を策定して取り組みを進めて行くというというものでございます。

<会長>

29頁の市民文化系施設についてはご意見をいただいたので、概ね2時間になったので、本日はここまでとさせていただく。次回は社会教育系施設についてご意見を頂戴したいと思うのでよろしくお願ひしたい。

それでは篠田先生から感想などがあればお願ひしたい。

<アドバイザー>

先ほども述べさせていただきましたが、皆さまのご発言は、この沼田に対する熱い

郷土愛から発せられていると感じましたので、おそらくこの会議を重ねるほどに沼田に対する郷土愛の具体的な形である未来に向けた「最適解」が見えてくるのではないかと期待しています。

その為にも、お忙しい方々ばかりですが万障繰り合わせてご出席いただき、前後の脈絡の有無に関係なく、遠慮なくご発言されることで、この会議の意義が高まると思います。また、会議に慣れていない方はどうしてもご遠慮があるかと思いますが、次回の市民構想会議のときには、そうした点についても遠慮なく積極的にご発言いただけると、この会議における議論が楽しくなると思います。

市民構想会議は未来を描く議論です。未来を思い描くことは楽しいことです。その為にもやはり楽しい議論が活発になることを期待したいとおもいます。楽しい議論は時に、厳しい意見のぶつかり合いになる場合もありますが、そうした議論が必ず未来をより豊かにすることにつながると確信しておりますので、その意味でも皆さんの大切なふるさと沼田市が未来永劫、楽しい地域になるような、それぞれのお立場からご意見を頂戴したいと思います。

<委 員>

28～29頁に記されている施設は様々な補助金を活用して建てられた施設だと思うが、全て沼田市が所有しているものなのか、また、管理は同じような形でされているのか、教えていただきたい。

<財政課長>

現在、施設ごとに施設カルテを作成していて、その中にはどのような事業で建設され、利用実績はどうかなどが一目で分かるようになっています。現段階ではデータはできていますが、形にするのに時間を要している状況ですので、次回以降準備ができたところでお示ししたいと思います。

<会 長>

篠田先生からいただいた資料2・資料3を見るとイメージが湧くと思いますが、これを跳ね返すようなものができればと思いますので、沢山のご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

2) その他

<会 長>

それではその他について何かあればお願いします。

<事 務 局>

次回の会議は、8月29日（火）の午後2時から中央公民館三階の第1講義室開催させていただきます。また、次回につきましても公共施設等総合管理計画の実施に向けて留意すべき点についてご意見をいただきたいと考えておりますのでよろしくお願

いします。

なお、次々回の会議日程でございますが、10月19日（木）の午後2時から北庁舎会議室で開催する予定でございますのでご予定をお願いします。

<会 長>

他になければ会議を閉じさせていただきます。

(5) 閉 会（事務局）